

「色って生きているんだ！」という驚き。わたしの色彩原体験

竹丸 草子

小学3年生の頃でしょうか。わたしは水族館で、ある水槽に釘付けになりました。たくさんのイソギンチャクが、水中でゼリーのような柔らかなフリルを纏って、ゆったりと揺れています。驚いたのはその色でした。イソギンチャクの体は乳白色の半透明で、細い筋模様は黄色やピンク色、水色、緑色の透明感を持った蛍光色だったのです。フリルの先についた玉のような突起は光るビーズのように並んでいて、それはもうきれいで、きれいで、わたしは水槽の前から動けなくなってしまいました。

小さなわたしにとって蛍光色といえば蛍光ペン。人間が最先端の技術で作った色だと思っていました。いわば人工的な「硬い色彩」。でも、目の前にたゆたうイソギンチャクの草原は、そんな思い込みを鮮やかに塗り替えました。それは海水を取り込み、息をするたびに表情を変える「生きた色彩」だったのです。

「ああ、自然の中の色は生きている」

「自然にはありとあらゆる色が存在しているんだ」

それはわたしにとって色との「出会い直し」でした。クレヨンや絵の具の色を「色」だと思っていたけれど、実はじぶんを取り囲むものすべてに色があるのだとハッとした瞬間でした。

世界中には、わたしがまだ見たこともない色が溢れている——。

そう思うと、世界が急に広く、輝いて見えました。

それからは、暗闇へと溶けていく夕焼け空や、重なり合う木々の葉、大好きな犬の毛並みにも、名前のつけようのない色の存在を感じるようになりました。今も暮らしの中で色を探してはうれしくなり、心が豊かになる毎日です。



新しい年のはじまりに
色に満ちた豊かな世界の平和を願いながら

竹丸 草子（アーツカウンシル東京）

今回のトピック こどもと造形教育

第13号は、「こどもと造形教育」というテーマでお届けします。今回は美術を通じて様々な場で教育活動をされている、こまちだたまおさんをお願いしました。こまちださんには色いろサロン第13回にもご登壇いただき、トピックについてお話しいただく予定です。

こどもと「色」と

こまちだ たまお

こどもとアートの日々をはじめて来年で35年目、うち、主宰アトリエの「たまあーと創作工房」は1998年からになる。活動を始めた時より「色の三原色+白黒」の5色だけのえのぐセットにしている。なので中間色は自分で作る。だからいつもこの色は何で出来ているかなあ、、、を考えるし、同じ色を作った時お互いの色を見合うと同じ色の仲間なのに、、、やっぱり違うね！と知ることができる。授業では半年に一回ぐらいの頻度で「色を作るカリキュラム」を実施している。手を変え品を変えてだ。するとたった5色で世界中の「色味」は大体、再現できるって知ることができる。と同時に世界にたった一つしかない自分の色も生み出せることも知る。こどもとの「色を作る経験」は幼い時から繰り返し繰り返し創作していくことで「こころ」「からだ」「のうみその構造」も創造する。そして、のうみそに知識を彫り込み知性を引き出し、未来も想像していく。色の三原色を絵筆にのせる時のように虹色の鮮やかな未来をこどもたちは描いていく。



こどもたちの創作風景



出来上がった作品



プロフィール

こまちだ たまお

絵を描く人美術を通じての教育活動人

東京藝術大学美術学部修士課程油画専攻修了

たまあーと創作工房こども教室美術教室代表

株式会社いろだま設立代表取締役

千葉県障害者芸術文化活動支援センターうみのもりセンター長

千葉大学教育学部小学生コース図画工作非常勤講師

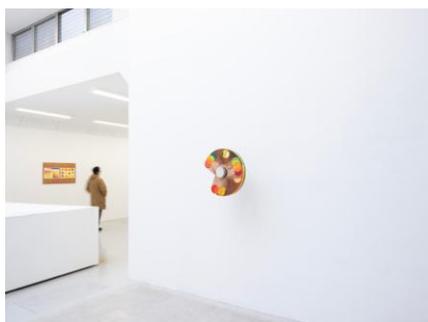
会員リレーコラム

「現代の侘び寂び」

私は木工作品の着彩の際に柿渋を使用します。柿渋は日本古来の天然ニスであり、木材に塗布すると、茶褐色や灰がかった落ち着いた色味と特有の艶を抑えたマットな仕上がりになります。照明の光を柔らかく受け止め、視覚的負荷が少なく長時間みていただける素材です。

様々な空間に自然と馴染み、建築空間に取り入れられることが多い柿渋ですが、絵の具との相性も抜群です。落ち着いた風合いで高彩度な色を引き立たせ、パステル調の柔らかい色味には重みのある茶褐色でどっしりと支えてくれます。

日本独自の美意識 “侘び寂び” に基づく柿渋と絵の具による絵画表現の在り方を私は追及しています。



2025年12月 東京藝術大学YUGA gallery

村山 心南 (ムラヤマ ココナ)
東京藝術大学美術研究科絵画専攻

第12回色いろサロンを開催しました

2025年10月31日（金）に、第12回となる『色いろサロン』を開催しました。「絵本の窓から世界を見る」Part2をテーマとし、前田善志さんにお話しいただきました。

<参加者からのご感想>（一部抜粋）

『前田さんのお話を伺って、自分の今持っている感性や好みの色彩・デザインなどが、子どもの頃好きだった絵本やアニメーションの影響を受けていることに気付くことが出来ました。』

『色を限定することで、逆にその中の“差”や“輪郭”が際立つという点に深く共感しました。身近な絵本をこのような視点で捉えることでより楽しさが変わると思いました。』

『触る絵本というものについて初めて知り、目が見える方、視覚障害のある方誰もが色彩や感触を通して楽しめるというところがとても印象に残り、ぜひ読んでみたいと感じました。』

第13回は1月30日（金）20時より開催予定です。たくさんのご参加、お待ちしております。

オンラインセッション 第13回『色いろサロン』のご案内

Color Circleで取り上げたトピックに関連するオンラインセッション『色いろサロン』の第13回を開催いたします。今回はテーマを『こどもと造形教育』として、執筆者の方に話題提供をしていただきます。

『色いろサロン』では、登壇者の方へのご質問はもちろん、参加者同士で意見交換を行い、会員同士の交流ができる場にしていきたいと考えています。

視聴のみのご参加も大歓迎です。会員の皆様、並びに本研究会にご関心のある方々、奮ってご参加ください。

●日時：2026年1月30日（金） 20：00～21：00

●方法：ZOOMによるリアルタイム配信

●オンライントークの会の流れ

- ・ Color Circle vol.13のトピック執筆者によるお話
こまちだたまおさん
名取初穂さん（司会）
- ・ トピックに関する質疑応答
- ・ 参加者全体、またはグループに分かれての意見交換

●参加費：

本研究会会員の方・・・無料

一般の方・・・1,000円

非会員のうち、学生で会員の紹介がある場合は無料

参加申込と同時にご入会いただいた場合は無料

●参加費のお振込先：

「郵便振替」「銀行振込」のいずれかよりお願いいたします。

郵便振替：00150-6-136277 色彩教育研究会

銀行振込：ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキユウ）店 当座 136277 色彩教育研究会

●お申し込み方法：以下のGoogle フォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/ptqp7xpNEFbEchbG8>

参加申込・参加費納入期限：2026年1月28日（水）

⇒1月29日（木）にZOOMのURLをお送りいたします。

※sikisaikyoiku@gmail.comからのメールが迷惑メールに分類されないよう、設定をお願いいたします。

※1月29日中にメールが届かない場合は、恐れ入りますが、事務局までご連絡をお願いいたします。

★こんなことを聞きたい、質問したい！等のご要望は、ぜひお申込フォームに記載をお願いいたします！

お問い合わせ先：日本色彩教育研究会事務局（sikisaikyoiku@gmail.com）



日本色彩教育研究会HP <http://shikikyo.jp/index.html>

発行人：茂木一司

製作：Color Circle編集委員会

（名取初穂、島田由紀子、手塚千尋、中島千絵、宮野周、大内啓子、佐々木三公子）

